東京日々新聞

七百八號

越後の國新潟の藝妓ゑ
今川屋雛と言る者
あり面色
雛の
ふくく
美あら
ぬ容桃
ほのゝとく艶あるねど弦を採て客を浮るその妙
あきい其繁昌殆ど三味線の彈もさらゞ是ゑ於て
富財千円ゑ及べり然るゑ雛ゑ情郎ありて名を敦賀屋喜
右エ門と呼び廿年來則親〳〵既ゑ二女を生し長女い等〳〵
藝妓ゑりはじも染膠の中より共金い敵の世ゑりゑん敦喜二朝米相場の
失策ゑり千有餘円の損とゑり夫を償えん為め窃ゑちの富財を持出しゑるを雛い夢ゑゞふ者ら〳〵しく
闇浮陀金の開帳とあさ〳〵と輦笥の引出しを明らゑみ光明何ぞへ弘光りを放ちて影ゞゑ歩ゞ足必竟
敦喜の呀為ゑらんと是を公ゑ訴へんとせしゑど止る者ありて其事ゑ至らざれども
遂ゑい為ゑ病ひとゑり又幾許ゑらゞて快氣ゑ至らとゑり

山々亭有錄

蕙齋芳幾

人形甲 具足屋 渡辺彫栄